



発行日 2022年3月31日
発行者 NICE沼津国際交流協会
(企画広報部会)
所在地 沼津市御幸町16番1号
(事務局) 沼津市役所地域自治課内
☎055-934-4717
FAX055-931-2606
<http://www.nice-numazu.org/>



Withコロナ これからの国際交流



カラマズー部会

姉妹都市カラマズー市をご存知ですか？

1963年7月1日、沼津市市制施行40周年の年に当時の沼津市長塩谷六太郎氏とアメリカミシガン州カラマズー市のポール・モリソン市長が沼津市公会堂において姉妹都市提携宣言に署名しました。👉



👉カラマズー市から贈られたFriendship Key of the City。この鍵を贈ることは自宅の鍵を渡すのと同じで、あなたはいつでも自由に私たちの街に入って来てもよい、私たちはいつでもあなたを歓迎するという意味をしています。



👉カラマズー市で展示された沼津市からの記念品。
👉カラマズー市のボーイスカウトから贈られた部族長の頭飾りをつけた第一回留学生（1964）。のちのNICE国際理解教育部会の道前（旧姓芹沢）初代部会長です。



カラマズー市からの初めての留学生（1965）。👉

👉1971年に沼津市から贈られた石灯籠を2018年の訪問団が同じ場所で発見しました！



2018年は姉妹都市提携55周年の年でした。この年、沼津市からの訪問団のメンバーがポール・モリソン元カラマズー市長のお孫さんたちと再会！姉妹都市の絆は時代を超え、世代を超えて確実に引き継がれています。



2019年には沼津で両市長が出会い友好を深めました。また訪問団滞在中にシティコミッショナーによるサプライズのプロポーズが♡



👉ボビー・ホープウェル市長と頼重秀一市長。沼津市とカラマズー市は、来年姉妹都市提携60周年を迎えます。しかし2020年と2021年、新型コロナウイルスの世界的流行のため訪問団の派遣は中止され、2022年もまだ先が見えないため中止が決まりました。例えコロナ禍がなかったとしても、両市ともそれぞれ時代とともに変わり続けていますが、姉妹都市の絆と友情はこれからも変わらず未来に引き継いでいきたいと思えます。



岳陽部会

沼津市と中国湖南省岳陽市は昭和60年(1985年)に友好都市提携をしました。本来であれば令和2年度(2020年度)に提携35周年を記念して岳陽市友好訪問団をお迎えし、記念行事などを執り行う予定でしたが、コロナ禍で叶わず大変残念に思っています。そこで、今回は両市の都市提携について紹介します。



【コロナ禍で人的交流はできなかったもののマスクの相互寄付等の物的支援交流を実施】

そもそも、沼津市と岳陽市のご縁は、昭和54年(1979年)に遡ります。この年“中日友好の船”の湖南省班が沼津市内を視察したのが両市の出逢いで、その翌年に本市に縁ある岳陽市在住の福地愛子さんが一時帰国し沼津市に滞在したことが契機となり、都市提携の機運が高まりました。その後、両市間での手紙のやり取りや訪問団の相互訪問などを経て、沼津市民文化センターにて友好都市締結調印式が執り行われ、両市の末永い友好と相互協力を誓い合いました。



【友好都市締結調印式の様子】

現在96歳で今も岳陽市に住む福地愛子さん。提携の契機となった福地さんの日中での歩みは、中国の雑誌で紹介されたり、日本でもNHKの番組で取り上げられたりしたことがあります。

福地さんは、小さなころから学業優秀にして明朗活発だったといえます。明るく未来を思い

描いて進学した大学在学中、鉄道会社のタイピストとして数十名の仲間の女性と共に中国の東北部へ渡り、そこで終戦を迎えます。

中国へ渡った多くの日本人が日本へ帰還していく中、福地さんは病に倒れ生死をさまよう事態となってしまいます。そんな福地さんを病院へ連れて行き看病の手配やその後の生活の面倒を見てくれたのは、当時八路軍の指導員だった高福栄さんでした。その後福地さんの病は完治しますが、日本への帰還のチャンスを失い途方に暮れた彼女に手を差し伸べたのも高福栄さんでした。

やがて二人は結婚し、北京・武漢・広州そして岳陽の工場へ配属され、子供にも恵まれ、様々な理由により離れ離れにされてしまった時期もあったそうですが、互いに信頼し合い強い絆で結ばれた夫婦であったそうです。



【写真左:結婚当時の福地さん(左)と高福栄さん
写真右:現在の福地さん(前列)と協会メンバー】

1980年、福地さんは息子さんと共に日本へ一時帰国します。沼津に住む家族や友人とは、福地さんが中国へ渡ってから実に三十数年ぶりの再会でした。当時、日中は国交が回復されていたといっても情報は乏しく、誰もが中国は日本より劣っていると考えていたようで、中国へは帰らずにそのまま沼津へ残った方がいいと助言する人がほとんどだったそうです。そんな中で、本当の中国を知ってほしいという一念で、福地さんは友人らと共に多方面に掛け合い、夫の高福栄さんの協力も得て、1985年、ついに岳陽市と沼津市は友好都市となりました。福地さんの想いから広がった友好の絆は、今も多くの人の心の中で生き続けています。

現在、コロナ禍で交流の機会が限られていますが、岳陽部会では、中国文化の理解を深められる講座等を行いながら両市交流のサポートをしていきますので、皆様のご協力をお願い致します。

国際理解教育部会

にほんごスピーチ発表会

令和3年11月27日にほんごスピーチ発表会を開催しました。

コロナの影響で前年と同様にNICEにほんごスピーチコンテストを中止にしてしまったので、コロナが落ち着いた時期を見計らって発表会という形で開催することとなりました。

突然の開催案内と差し迫る開催日にもかかわらず、6名もの外国の方々に参加して頂き、大変ありがたく思いました。

四季を感じる日本での初めての冬がとても寒かった思い出や、そのことに今でも慣れないこと、また、故郷ではキャンプを趣味にしていたので日本でもキャンプをしてみても気が付いたこと、そんな趣味や日常での日本人の自然観についての考察がありました。



インドネシアから研修生として来日したというその青年は、「日本人は自然を世話するのが上手で、上手に自然管理が来ているので、自然・環境破壊をせずに安定して建築資材などを供給できる」などと、キャンプ場だけでなく様々な場所での個人のゴミ管理についてもたくさん気付かされたとのことでした。

また、スリランカから来日した20代前半の女性は、子どもの頃に「おしん」を見て、とても日本に興味を持ったそうです。ドラマは明治の後半から戦後にかけての内容だったので、発表会の後に発表者に来日後の感想を尋ねたところ、とても近代化していて大変驚いたと話してくれました。そんな彼女はスリランカでも有名な日本の自動車に憧れ、いずれは日本車の整備士になりたいと、「おしん」のように頑張る、絶対に整備士になるのだと夢を話してくれました。

納豆が食べられないと語ってくれたのは20代半ばのインドネシアの女性。体質的に匂いを受け付けられないそうです。どうしても残せない状況

で納豆を出されたときに、食べられないと言いつけなくて、仕方なく食べたふりをしてこっそり持ち帰ったと話してくれました。にほんご教室に参加している方だったので、後日、他に嫌いな和食がないか聞いたところ、刺身などの生食は苦手で蕎麦も嫌いだそうです。そんな彼女は、食文化やゴミ文化についても来日して気付いたことを話してくれました。

ベトナムから来日した青年は、日本で出会ったやさしい日本人とそうでない日本人について話してくれましたが、総じて日本人には独特のやさしさがあると最後に締めくくってくれました。



発表会終了後に、参加者の付き添いの方とお話しさせてもらいましたが、コロナの影響により仕事以外で日本人と接する機会が少なくなってきたので、日本語での会話や発表する場所を今後とも作ってもらえると嬉しいとお話を頂きました。

今回のスピーチコンテストの準備段階で参加者を15名募集したところ、コロナ渦中にもかかわらず20名以上もの応募がありました。

その折「コンテストを是非とも開催してください」とお願いされていたのですが、規模を縮小しての発表会で大変心苦しく感じました。次回は、何とかスピーチコンテストが出来るように準備をしていきたいと思えます。



にほんご教室に参加している外国人の方から沼津について記事を書いてももらいました。

注) 本文は原文のままですが、()内は注釈及び修正をしています。



「門池公園」

シヨンヤームア 26才
ラオス出身 日本在住2年6ヶ月

私は 沼津市大岡に すんでいます。今まで2ヶ月に たちました。(2ヶ月経ちました)前は 東京にすんでいます。

最近 行った たのしい所は 門池公園です。この辺は(ここには) 大きな 池が あります。ここに 行った 時は 人が たくさん来て あそびします(遊んでいました)。だれでも 笑顔が 見えます(だれもが笑顔でいました)。



この 池は 回り道(遊歩道)が あります。だいたい(の) 人が この 場所(で)は さんぽするし、魚をとるし、ギターをひくし、ピクニック することなどです(などをします)。私は この辺で 運動したり、写真を とった



りします。けれども、写真は ときどきやりままだけです(時々やるだけです)。

池の一つ側は(池の畔)さくら木が たくさんあ

ります。4月に さくらを(が) さいてる時は 本当に きれいに なると思います。さくらの 花を 見るのが 大好きです。さくらを見たら、自分が 自分の みんなのお正月を(に) さんかしてみたいです(参加したくなります)。(この公園で過ごすことは) 気持ちが一番 いいです。

私は サッカーが 一番 大好きで ラオスで よく しました。



門池公園で 走(っ)てい る 時には 人に 会うと 自分の 気持ちが 大きな 広場で 友達と サッカー を している 気分みたいです。昔のこと を 思い出して、かなしくになる(悲しくなる) こともあります。

門池公園は いい 場所で 手が あいたら よく 行きます。

(門池公園は) 私に よって(とって) つまらない 所です。(いつも一人なので誰かと一緒に 行きたいとの意味)

もし だれが(だれかが) こいびとと さんぽ したいとか こどもが あそびたい 時は この池を(が) おすすめで す。



シヨンヤームアさん



企画広報部会
**令和4年度 沼津国際交流協会
総会のお知らせ**

日 時 5月29日(日)
14:00~15:30(予定)
会 場 沼津市民文化センター2階大会議室
住所: 沼津市御幸町15-1
TEL: 055-932-6111

※懇親会は今回開催いたしません。
※新型コロナウイルスの影響により中止、
または変更になることがあります。
※当日受付にて令和4年度分の会費を納め
ることが出来ます。尚、振込される場合
は下記へお願いします。

振込口座

- ・銀行名 スルガ銀行
本店営業部(普)
- ・口座番号 1563774
- ・口座名 沼津国際交流協会
会長 田中治之

※令和4年度会費は5月29日(総会の日)
までに納入をお願いします。
※恐れ入りますが、振込手数料はご負担く
ださい。銀行から発行される振込票、ま
たは振込明細をもって領収証にかえさせ
ていただきます。
※ホームページへの会員登録をお願いします
(登録希望者は各部会長へご連絡くだ
さい)

学びたいのは、日本語だけじゃない。


学校法人 静岡理科大学

沼津日本語学院

Numazu Japan Language College


**岳陽市と新たな交流が生まれつつあります
沼津市出身の鈴木翔太君を紹介します**

 3年越しの
夢が叶って嬉しい!

**中国岳陽市で初めての海外個展開催!
沼津市公認おさかなアートクリエイター
鈴木翔太君(12歳)**

小学校2年生の頃から自身の展示会を沼津
市内外で開催(6テーマ・25会場)し、絵を
通して海洋生物の魅力、駿河湾の魅力を広
く紹介してきた翔太君。この度、沼津市の友好
都市である岳陽市の小学校(2校)、中高一貫
校(1校)にて、8歳の頃描き上げた「駿河湾
の海洋生物たち」のレプリカ26点を
展示することになりました。

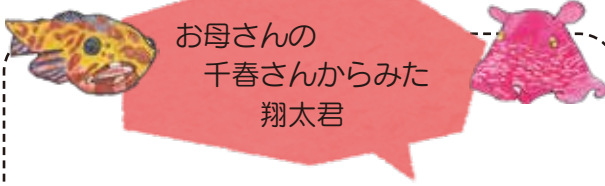


今回の開催にあたり、翔太君のお
母さんの千春さんは「沼津市長をはじめ関係
職員の方々、また快く受け入れ迅速に対応し
てくださった岳陽市の連さんなど、多くの皆様
がご協力してくださいました。本当に感謝して
おります。」と話して
いました。この出
会いをきっかけに
岳陽市との新たな
交流が生まれるこ
とを期待します。



♪岳陽市の小中学校に展示(2022年3月~4月)


 ♪岳陽市美術館に
展示(2022年
6月~8月)



お母さんの
千春さんからみた
翔太君

0歳から絵と生き物が大好きな男の子

翔太は生後10か月の頃からペンを持ち、大きな画用紙に絵を描くのが大好きでした。初めて描いた絵は1歳9か月。車の絵でした。丸が描けるのが平均3歳、目に見えたものを描きだす作業は1歳では難しいと、当時通っていた恵愛保育園の先生に聞き、翔太は絵が好きだけでなく、上手かも知れないと感じました。

4歳の頃には恐竜に興味を持ち、古代魚、そして深海魚にのめりこみました。図書館で毎週のように大人が読む図鑑を借り、写真やイラストを見ては真似をして描いていました。また海に面した土地柄、磯遊びに毎週のように出かけ、磯の生き物を観察。お気に入りには西浦の長井崎。ここは潮が引くと磯が現れるので、幼魚や

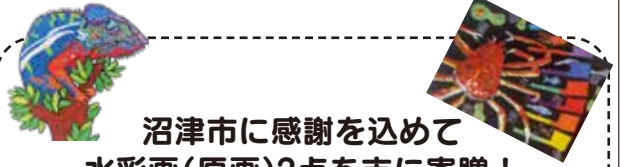


ナマコ、ヒトデ、ウニなど多くの生き物を見ることが出来ます。

僕の絵を売って寄付したい！

小学2年生（7歳）のお正月に、体感型動物園izooの『巨大池建設プロジェクト』に関するニュースを観た翔太は、カメのために何かお手伝いができないかと考え「カメが困っているからぼくが手伝う。絵を売って寄付したい。」と話し、121,000円を寄付しました。（2022年3月現在の寄付合計金額361,000円）

これからも、自分が大好きな絵で「地域活性化・社会貢献」し、学生だからこそ出来ることを、「恐れず・限界を作らず・愛情を持って」挑戦、実行していきます。



沼津市に感謝を込めて 水彩画(原画)2点を市に寄贈！

2022年1月4日、沼津市に地元4漁港をテーマにした水彩画と、岳陽市で展示される原画2点を寄贈。翔太君は「地元水産業を支える漁協をこれからも応援したい」と話し、いつも応援してくれる皆様にも感謝していました。後日寄贈に対して、沼津市長より感謝状を授与されました。



👉 家族で市長表敬。
岳陽市での個展開催の報告と水彩画を寄贈



👉 市役所1Fの多目的スペースで展示しました。



鈴木翔太くんのプロフィールはQRコードから見る事ができます🌸

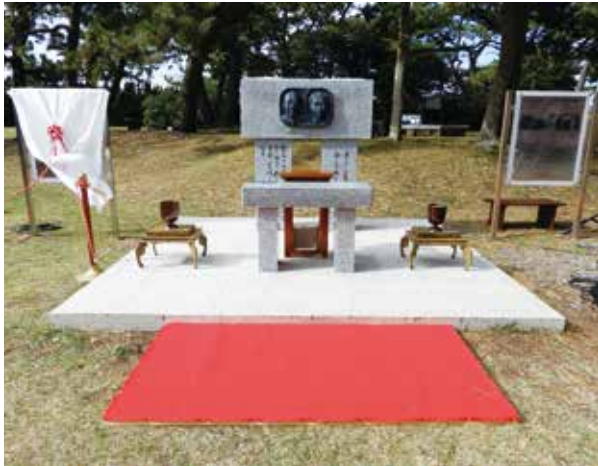


杉原千畝夫妻顕彰碑

杉原千畝の幸子夫人の生誕地である沼津、その夫妻の功績を讃えようと長興寺住職松下宗伯氏を代表に「命のビザ・杉原千畝夫妻顕彰会」が発足しクラウドファンディングにて資金を集め、大勢のボランティアの方々の協力を得、港口公園に顕彰碑を設置し2020年に徐幕式が行われました。



氏を代表に「命のビザ・杉原千畝夫妻顕彰会」が発足しクラウドファンディングにて資金を集め、大勢のボランティアの方々の協力を得、港口公園に顕彰碑を設置し2020年に徐幕式が行われました。



また2021年11月14日には、英文説明板除幕式・第1回碑前祭を「命のビザ・希望の集い」と題してイスラエル、リトアニア、ポーランドの大使館の方々、頼重沼津市長、奥村教育長、その他各界の代表の皆様など200名を超える人々が参列され盛大に開催されました。



題してイスラエル、リトアニア、ポーランドの大使館の方々、頼重沼津市長、奥村教育長、その他各界の代表の皆様など200名を超える人々が参列され盛大に開催されました。



式典は献茶、献花、来賓の方々の祝辞（大使館の方のスピーチを暁秀高校の生徒が順番に通訳したのが印象的でした）、箏曲の奉納演奏と厳かに進み無事に終了しました。



また11月27日には沼津市民文化センターにて「命のビザ・講演会」と題してオペラ（杉原千畝物語・人道の桜）の短縮版の上映、川村秀氏「モスクワでの杉原千畝さん」、北出明氏「命のビザを繋いだ人々」とお二人の講演を頂きました。



除幕式、碑前祭、講演会とNICEの皆さんの多数の参加、協力を頂き本当にありがとうございました。

沼津国際交流協会として「人道の精神」「博愛の精神」を守り抜いた杉原千畝夫妻の功績を大切に守り、後世に引き継いでいきたいと思ひます。NICEの皆さん、これからもご協力よろしくお願いします。



次号のNICEでは11月27日に開催された「命のビザ・講演会」の内容を掲載します。お楽しみに♪